

令和6年度日本生化学会九州支部例会 ポスター賞 銅賞受賞者の声

佐伯彩華(九州大学大学院歯学研究院 OBT 研究センター)

今回の九州支部会では、他の参加者の方との距離が近く、同じくらいの学年の方が素晴らしい発表をされているのを見て、自分が立っている土俵のレベルの高さを実感することができました。

ポスター発表と口演が終わり、焦りを感じつつ、「みんなすごいな…」と感心していたところで銅賞をいただけて、とても嬉しかったです。

賞を頂けたこと、他の研究室の先生方や学生さんからたくさん意見を頂けたことを励みにし、良い成果を残せるようにこれからも頑張ります。

最後に、有意義な支部会を開催してくださいました関係者の方々に御礼申し上げます。来年の支部会も楽しみにしております。

杉本らら(崇城大学薬学科薬学専攻生化学研究室)

この度ポスター発表で銅賞をいただけたことを大変光栄に思います。今回、学会でのポスター発表が初めてであり、最初はとても緊張しました。しかし、自身の研究内容について意見を交換したことで、新しい視点から考察できるようになることを感じ、とてもワクワクしました。懇親会では、生化学会の皆さんの温かな雰囲気と研究について楽しそうにお話ししているところから研究者としても人としてもこんな風になりたいと感じました。緊張や自信のなさから積極的に質問したり話しかけたりできなかったことへの後悔もありますが、学会へ参加できて大変よかったです。たくさんの学びを得た今回の経験に心から感謝します。また、多くの素晴らしい方々に支えられ、とても恵まれた環境で日々の研究に取り組んでいることを実感し、有り難く思いました。今後、自信を持って皆さんと議論できる研究者になれるようより一層精進します。この度は本当にありがとうございました。

アンドレス堤ガブリエル天(長崎大学薬学部薬学科)

銅賞を受賞できたことは非常に光栄なことです。私自身は薬学部5年生で研究室に配属されて1年半と研究経験は非常に浅いです。この賞は決して私一人で成し得たものではなく、日々ご指導していただいている谷村先生をはじめ、共同で研究をしているサメ抗体班の方々のおかげです。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

今回初めて学会のポスター発表に参加させていただくということもあり、学会前は不安や緊張でいっぱいでした。しかし、当日たくさんの方が発表に来られて、質問やご助言などをいただけたので間違いなく有意義な時間となりました。

私の研究室では、細胞生物学をメインに扱っていますが、私の研究チームはサメの抗体というひと味違ったことをテーマに日々研究に励んでいます。サメの抗体から作り出されるサメ由来ナノボディというのは実に魅力的な抗体分子であり、今後このような新規モダリティの抗体医薬に注目が集まることを深く願っております。

永野颯人(長崎大学大学院・医歯薬学総合研究科)

初めに、支部長の澤先生はじめ、運営に関わっていただいた先生方、運営ボランティアの皆さま、私の発表を聴衆いただいた皆さまに感謝申し上げます。また、ポスター賞という大変光栄な賞をいただきまして本当にありがとうございます。私自身、初めての学会参加で、自分の実験を発表する場をいただいたことへの喜びと緊張が入り混じったような感情でした。ポスター作成では本例会のテーマとも重なるように、自分の実験の楽しさが聞き手の方々に伝わるように工夫しました。発表本番では緊張感を強く感じましたが、多くの方々と有意義な議論を交わすことができたことに加え、私以外の発表も聞くことができ研究者として貴重な経験となりました。私は阻害剤探索をテーマとして実験を進め、本発表では *in vitro* のアッセイで活性がある新規化合物を発見したことを報告しました。今後は細胞系や *in vivo* での解析を進め、その実験結果で次は金賞を取れるよう日々精進します。

青木うらら(熊本大学発生医学研究所ゲノム神経学)

私は今回が初めての参加だったため、ポスター発表ではとても緊張し、うまく説明できなかったところもあったように思う。しかし、何人かの方が興味を持って聞きに来てくださったことや、ポスター賞を頂くことができたことで、自分の研究に対して、これまで以上に自信を持てるようになった。発表内容についていくつか質問やコメントをしていただいたが、その中には自分の予想していなかったようなものもあり、もっと勉強しておくべきことや、実験の中で考えておくべきことなどに気づくことができた。また、他の参加者のポスター発表や口頭発表などについては、自分の研究分野とは全く異なるものがほとんどだったため、完全に理解するのが難しい発表も多かったが、どれもとても興味深く、こんな分野の研究もあるのか、ととても新鮮な気持ちで聞くことができた。普段このような機会はなかなかないため、とても良い経験になった。

田丸智哉(福岡工業大学大学院工学研究科生命環境化学専攻)

令和6年度九州生化学会九州支部例会でポスター賞銅賞を受賞でき、大変嬉しく思います。この賞をいただけたことで、今回の研究成果が評価されたことを感慨深く受け止めています。ポスター発表の場で多くの方々から貴重なフィードバックやご意見をいただき、それが今後の研究に新たな刺激となりました。初めての学会参加で自身の課題点や改善すべき点を見つけることができ、今後の成長につながると確信しています。この経験を通じて、さらに深化させた研究を進め、次回の学会ではさらなる成果を目指したいと考えています。ポスター賞をいただけたことに深く感謝し、これからも研究に邁進していきたいと思います。改めて、ご支援いただいた皆様に心からの感謝を申し上げます。

森 尚寛(九州大学生物資源環境科学府)

この度、令和6年度日本生化学会九州支部例会においてポスター賞を受賞することができ、大変光栄に存じます。ご審査いただいた先生方を始め、学会関係者の皆様に深く感謝申し上げます。学会では最先端の研究成果が発表される中、自身の研究が評価されたことは大きな励みとなりました。ポスターセッションでは自身の研究成果を多くの方々に紹介

し、貴重なフィードバックを得ることができました。これらの意見は今後の研究において非常に参考になると感じています。さらに、学会を通じて多くの研究者と交流し、ネットワークを広げることができました。最後になりましたが、日頃からご指導いただいている角田佳充教授、西本悦子准教授、寺本岳大助教にこの場をお借りして深く御礼申し上げます。この受賞を機に、さらなる研究の深化と発展に努め、科学の進歩に貢献できるよう精進してまいります。

Haoyang Zhu(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科)

I feel very honored to receive the poster presentation award from the Biochemical Society. In fact, this Biochemical Society is the first society I have ever attended in my life. I feel very surprised and incredible to win the award in my first society.

As a newly arrived international student, this award has an unparalleled motivational effect on me. It is like opening a door for my future scientific research path, making me more determined in my future research direction.

Of course, the award for this poster presentation is inseparable from the careful guidance and help of professors and colleagues in the laboratory, so I would like to thank them here for helping me successfully complete this research project. At the same time, I will regard this award as a motivation to motivate me to go further and further on the road of future research. I will work hard to study more knowledge and look forward to achieving more dazzling results in the future.

